

平成27年11月

関西広域連合議会産業環境常任委員会会議録

平成27年11月関西広域連合議会産業環境常任委員会会議録 目次

平成27年11月7日

1	議 事 日 程	1
2	出 席 委 員	1
3	欠 席 委 員	1
4	事務局出席職員職氏名	1
5	説明のため出席した者の職氏名	1
6	会 議 概 要	2

○議 事 日 程

開会日時 平成27年11月 7日

開催場所 本部事務局 大会議室

開会時間 午後 2 時15分

閉会時間 午後 3 時00分

議 題

調査事件

関西広域スポーツ振興ビジョン（仮称）骨子（案）について

○出 席 委 員 (15名)

3 番 中 沢 啓 子	17 番 永 田 秀 一
4 番 家 森 茂 樹	20 番 岸 本 健
5 番 諸 岡 美 津	23 番 興 治 英 夫
6 番 大 橋 一 夫	26 番 元 木 章 生
9 番 今 西 かずき	28 番 井 坂 博 文
11 番 中 川 隆 弘	30 番 丹 野 壮 治
15 番 藤 田 孝 夫	31 番 八 尾 進
16 番 藤 原 昭 一	

○欠 席 委 員 (3名)

19 番 長 坂 隆 司	35 番 藤 原 武 光
33 番 吉 川 敏 文	

○事務局出席職員職氏名

議会事務局長	神 崎 敏 道
議会事務局次長	古 川 美 信
議会事務局総務課長	岡 明 彦
議会事務局調査課長	樋 本 伸 夫

○説明のため出席した者の職氏名

広域観光・文化・スポーツ振興局スポーツ部長	小 橋 浩 一
広域観光・文化・スポーツ振興局スポーツ部広域スポーツ振興課長	八 木 康 文
広域観光・文化・スポーツ振興局スポーツ部参与（滋賀県）	江 島 宏 治
広域観光・文化・スポーツ振興局スポーツ部課長（大阪府）	島 原 賢 司
広域観光・文化・スポーツ振興局スポーツ部参与（和歌山県）	楠 義 隆
広域観光・文化・スポーツ振興局スポーツ部課長（鳥取県）	小 西 慎太郎
広域観光・文化・スポーツ振興局スポーツ部課長（徳島県）	松 崎 徹 郎
広域観光・文化・スポーツ振興局スポーツ部参与（京都市）	松 田 晃 郎
広域観光・文化・スポーツ振興局スポーツ部参与（堺市）	坪 井 弘 和

午後 2 時15分開会

○委員長（家森茂樹） これより関西広域連合議会産業環境常任委員会を開催いたします。

本日の調査事件は、「関西広域スポーツ振興ビジョン（仮称）骨子（案）について」であります。委員会の終了時刻は、15時15分を目途といたしますので、よろしく願いいたします。

理事者側の出席については、お手元に名簿を配付しておりますので、ご覧おき願います。

それでは、最初に、小橋広域観光・文化・スポーツ振興局スポーツ部長からご挨拶を願います。

小橋スポーツ部長。

○広域観光・文化・スポーツ振興局スポーツ部長（小橋浩一） 失礼いたします。

9月5日付で規約の改正に基づきまして、新たに設置をされましたスポーツ部長、これを拝命をいたしました兵庫県の教育委員会教育次長の小橋でございます。よろしく願いいたします。

本日は、先生方お忙しい中、私どもにこういった形でご説明の機会をお与えいただきましてありがとうございます。スポーツ部の喫緊の課題としまして、関西広域のスポーツのビジョン、これを作成するというのがまず第一の業務でございまして、本日はその中で骨子の案というものを取りまとめをさせていただいております。これにつきまして、ご協議をさせていただいた上で、先生方のご指導、それからご意見をいただきまして、これから同時並行で進めております本編のビジョン、こちらのほうに反映をさせていただきたいと思っておりますので、本日はどうかよろしく願いいたします。

○委員長（家森茂樹） それでは、次に、「関西広域スポーツ振興ビジョン（仮称）骨子（案）」について、小橋スポーツ部長から説明をお願いいたします。

小橋スポーツ部長。

○広域観光・文化・スポーツ振興局スポーツ部長（小橋浩一） それでは、私のほうから「関西広域スポーツ振興ビジョン（仮称）骨子（案）」につきまして、資料に基づきまして、ご説明をさせていただきます。

それでは、A3の一枚ものの資料をご覧いただきたいと思えます。

まず、ご説明に入ります前に、これまでの検討の経緯でございますが、ご説明をさせていただきたいと思えます。

ご説明いたします広域スポーツ振興ビジョン（案）につきましては、広域連合として取り組むべきスポーツ振興施策、これを明確にしまして、関西が一体となった取組の方向性を示すというものとして、構成をしております各府県市のスポーツの担当課長等で構成をいたします広域スポーツ振興担当課長会議、各府県市の会議、お集まりいただきまして会議をしまして、策定作業を進めてまいりました。あわせて、アドバイザーとしまして、スポーツ社会学がご専門であります神戸大学大学院の長ヶ原誠教授、並びに観光マーケティング観光事業論がご専門の近畿大学の高橋一夫教授、このお二人からもご指導、ご助言をいただきながら、この原案を作成したということでございます。

本日は、ビジョンの主な項目と概要をまとめました骨子（案）について、ご説明をさせていただきます。なお、本日お配りをしております資料でございますが、先生方に事前に

資料を送付させていただいておりますけれども、その間、各府県市からの意見を踏まえまして、若干の修正をさせていただいております。大きな修正ではございませんが、表題であるとか、文言の若干の修正をさせていただいておりますので、本日お手元に配付をしておりますこの資料に従いまして、ご説明をさせていただきますので、どうかよろしくお願いいたします。

それでは、資料のほうをご覧ください。

まず、ビジョンの構成でございますが、「はじめに」というところで趣旨、目的を示しております。1の「スポーツをめぐる現状と課題」、ここで関西を取り巻く課題・現状、それからスポーツを取り巻く現状・課題というものを五点挙げさせていただいております。

それから2で、「関西が目指す将来像」、今後スポーツを拠点にどういった関西像を描くのかということを中心に三つの柱として、こういったものを目指そうという形で記載をさせていただいております。そうした将来像に向けて、どのような戦略で取り組むのかというところで3にございます「広域課題に対する戦略Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ」ということで、目指す三つの将来像に向けた戦略をこの三本柱といいますか、三つの戦略ということでまとめてございます。

最後の4につきましては、ビジョンの位置づけに向けて一体で共同で進めていこうということの結びの言葉として記載をしているというような構成でございます。

それでは、それぞれの項目ごとにご説明をさせていただきます。

まず、「はじめに」というところでございます。

目的としましては、やはりアジアで初となる生涯スポーツの国際競技大会「関西ワールドマスターズゲームズ2021」の開催が決定をしました。これを契機とする生涯スポーツの機運の高まり、これを継続的なものとするため、関西ワールドマスターズゲームズ2021が開催される平成33年度末までの間ということ、ビジョンの期間としましては、この平成33年度末というものを目途としてございます。その平成33年度末までの間に関西広域連合として取り組むべきライフステージに応じたスポーツ振興施策及びスポーツの副次的効果を明確にしていこうと、こういったことを明確にすることによりまして、一体的な取組を展開していくということで、今回のビジョンの趣旨をここに記載をさせていただきました。

続きまして、1の「スポーツをめぐる現状と課題」ということで、五点の観点から現状と課題を取り出してございます。いろんな切り口があるかと思うんですけれども、「(1) 生涯スポーツ」、「(2) 競技スポーツ」、「(3) 障害者スポーツ」、「(4) 人材育成」、それから「(5) 国内外のスポーツ大会」というような観点からの現状と課題をピックアップをしております。

まず、(1)の「生涯スポーツの観点」でございます。

よく言われます文部科学省の調査等からもこれが伺えるんですけれども、子供の体力の低下、運動する子供としない子供、そういった二極化という中で、体力水準が最も高かった昭和60年頃、これがピークと言われてございますが、昭和60年頃に比べて、低下、依然低い傾向が続いているという体力の問題。それから20代から50代、いずれの年代でもスポーツの実施率が減少している。一方で、60代以上になりますと、そういった実施率が増えているというような年代によって意識、そういった健康増進への意識、そういった違いがあるというところから、二つ目の丸に記載をしておりますように、こういった子供から高

年齢者、各ライフステージに応じた効果的なアプローチが必要だろうという中で、スポーツ参加の機会を提供する、総合型地域スポーツクラブ、こういったものが政策としてあるわけですが、こういった役割が注目されており、二割の団体で未設置の状況にあると、こういった課題があるということでございます。

(2)の「競技スポーツの状況」でございます。

競技スポーツにつきまして、関西というのを見てみますと、大規模競技大会の開催実績がある。関西各地域にそういった施設が整備をされておりますけれども、やはり府県市単独で国際競技大会、総合スポーツ大会、こういったものを誘致して、いこうというのはなかなか難しいのではないかと。関西全体として施設利用についての連携したシステム、こういった検討が必要ではないかという観点でございます。

「(3)障害者スポーツの状況」ということでございまして、障害者に対する理解、障害者スポーツに関する情報提供の促進、障害者のスポーツ大会への参加機会の拡大。あるアンケートを見ますと、やはり障害者がスポーツを取り組むに当たりまして、どういったところで障害者が参加できるスポーツ大会があるのか、そこまでどういった交通機関があるのか、なかなかそういった情報がないというようなアンケートもございますので、そういった情報提供の問題。それと体育施設はもとより社会全体のバリアフリー化です。障害者が参加する上でのバリアフリー化、こういったことを促進をするという意味で、ハード、ソフトの環境整備の検討、これが必要ではないかという視点でございます。

「(4)スポーツ人材の育成と活用」ということでございまして、スポーツ人材、アスリート及び、例えば審判であるとか、大会を開催する上でのさまざまな人材が大会をするためには必要であるということでございますが、これにつきましては、各府県市それぞれで体協であるとか、スポーツ団体、いろんなところで取組をされているという状況ではございますが、アスリートの育成、大規模競技大会で必要となる、そういった人材を確保するために、関西全体で連携したシステムを検討する必要があるのではないかとという視点でございます。

それから(5)としまして、「国内外のスポーツ大会の開催等の推進」。

これにつきましては、先にメディアにもよく出ております、ワールドマスターズゲームズ2021の以前に、ラグビーワールドカップ2019、東京2020オリンピック・パラリンピック、こういったものの事前合宿の誘致と大会の成功、こういったものに向けまして、関西全体で取り組む体制、これを検討する必要があるのではないかと。

以上、五点のスポーツをめぐる現状と課題というものを挙げさせていただいております。こういった状況がある中で、まず関西として広域スポーツとして、どういったところを目指していくのかということ、これを三点挙げさせていただきました。

まず、「生涯スポーツの拠点『生涯スポーツ先進地域関西』」という柱でございます。各府県市間の円滑な調整力のもと、生涯スポーツの機運の高まり、これを持続的にする取組を推進をしていきまして、日本の中で、生涯スポーツの拠点関西を「生涯スポーツ先進地域関西」、こういったことを目指していけばどうかという提案でございます。

第二に、「競技スポーツ大会の拠点『スポーツの聖地の関西』」ということで、「聖地」というものを記載をさせていただいておりますが、例えば阪神甲子園球場であるとか、花園ラグビー場ということで、関西には全国大会のいわゆる聖地と呼ばれるような競技場

がございます。こういったものがある関西の強みというものを生かしまして、日本の競技スポーツ大会の拠点「スポーツの聖地関西」、これを目指せばどうかという提案でございます。

それから三つ目に「スポーツツーリズムの拠点『スポーツツーリズム先進地域関西』」ということで、各府県市の広域的な連携のもと、各多種多様な地域の観光資源、これをスポーツと結びつけることによりまして、インバウンドの拡大を図るなど、関西地域の経済活性化、観光とスポーツを結びつけるということで、「スポーツツーリズム先進地域関西」、これを目指していけばどうかという提案でございます。

以上、将来像として三つの提案をさせていただきます。

では、それに向けてどういった取組をしていくのかということで、右の欄に広域課題に対して、将来像を目指してどういった戦略をとるのかということで戦略を三つ、それぞれの将来像に向けてということで記載をさせていただきます。

まず、戦略Ⅰとしまして、「生涯スポーツ先進地域関西」、これの実現に向けた戦略ということで、四つの案をお示しをさせていただきます。

まず、先ほど子供の体力の低下ということがございました。「子供や子育て層のスポーツ参加機会の拡充」ということでございまして、総合型地域スポーツクラブ、スポーツ少年団、こういったものの地域のスポーツ活動、これはそれぞれ市町村単位、府県単位で行われていることではございますが、関西全体として、こういったものを支援をしていくということで対応していけばどうかという案でございます。

それから、スポーツにかかわるという意味で、防災、子育て、スポーツ以外のこういうさまざまな分野、これをスポーツにリンクをさせて、新しいイベントを開催していく。このようなことで、子供とか、子供を持つ若い親の層、こういったものの参加機会を拡充していこうというものでございます。

②としまして、「中高年のスポーツの振興」。先ほどスポーツの意識はあるんだけど、実施率が低くなっている中高年に対しましては、関西マスターズスポーツフェスティバルでありますとか、ワールドマスターズゲームズのプレ大会、こういったものを広くやっていくことによって、中高年が参加できる機会、こういったものを拡げていこうという案でございます。

③としまして、「障害者スポーツの振興」でございます。

これにつきましては、まず関西ワールドマスターズゲームズ、こういったものの障害者、当然障害者の参加の機会というものがございますので、そういったスポーツの参加機会を拡充をしていこうと。あわせてまして体育施設、交通アクセス、こういったものを含めた周辺施設、施設の周辺地域の全体のバリアフリー化、こういったものにも取り組んでいく、支援をしていくということでございます。

それから④としまして、「地域のスポーツ振興に向けた広域的連携」、これを支援していくということでございまして、まず今現在、それぞれ各府県市、スポーツの振興計画をつくり、その中でそれぞれの取組をされています。ただ、関西全体というものを見た場合に、なかなかその関西を基盤としたスポーツに関する意識の調査でありますとか、余暇の行動、こういったものは各府県はそれぞれやられていると思うんですけれども、全体的に統一的な実態調査を行いまして、こういった全体の取組の参考としていく、こういった調

査をまずすればどうかということでございます。

それから今現在取り組んでおります関西マスターズスポーツフェスティバル、これを本大会が終わった後、これについても毎年度順番に開催をしていくなど、こういったことを継続的にやっていけばどうか。

それから各種のスポーツ大会、今現在これという具体的なことは書いてございませんが、そういったことを誘致することによりまして、いろんな切り口、家族単位、職場、職域単位、同窓会などで各年代層が集まってやる。さまざまな切り口から参加形態を創出していこう。

それからスポーツ大会を進めるに当たっての、やはり昨今言われておりますボランティアでの参加、こういった環境の整備に取り組んでいこうというものでございます。

以上、戦略Ⅰとしまして四つの取組を掲げさせていただきました。

それから次に戦略Ⅱとしまして、「スポーツの聖地関西」、これの実現に向けた戦略ということで、これは三つの戦略を掲げさせていただいています。

まず⑤としまして、「国際競技大会・全国大会の招致・支援」でございます。

先ほども将来像のところでも触れましたインバウンド、これの拡大が期待できる国際競技大会、こういったものでありますとか、事前合宿、他府県からの訪問者の拡大が期待できる全国大会、こういったものの関西各地への招致を支援していこう。各府県市のまず特性、いろんな府県、バックグラウンドが違いますし、自然環境が各異なっておりますので、スポーツができる環境というものも異なっている。逆にそれを生かしまして、各府県市の特性を生かせる広域的なスポーツイベントを毎年度開催する。こういったものの招致・支援をしていけばどうかということでございます。

それから⑥の「スポーツ人材の育成」としまして、これも各府県市が取り組んでおります、そういった取組、これを連携していけばどうか。アスリートの育成ということになりますと、例えば国体ですと、それぞれが競い合うということではございますけれども、国内全体の大会を考えた場合に、関西から人材を輩出していくという意味での連携、それからスポーツ指導者、こういった指導方法というものの情報の共有化、それから大会を進めていく上での事務局的な役割を担っていただく、審判とか、競技役員、こういったものの養成講習、こういったものを共同で開催をしていけばどうかという案でございます。

それと次のところは、同様なことを記載をしておりますけれども、そういった大会が必要となります育成確保の連携システム、これを構築していこうというものでございます。

それから「⑦国際競技大会等のレガシー」、今オリンピックなどもそのレガシー（有形・無形の遺産）、大会をすることによりまして残していくもの、これの新たな創出に向けた検討が必要ではないかということでございます。関西ワールドマスターズゲームズ、これの波及効果、最大化をするような取組を検討していこうというものでございます。

次に、戦略Ⅲとしまして、「スポーツツーリズム先進地域関西」、これの実現に向けた戦略ということで二つ掲げさせていただいております。

⑧としまして、「広域観光・文化振興との連携」でございます。観光資源・文化資源、こういった関西ブランドを理解してもらうようなプログラム、これは観光分野とも連携が必要ですが、こういったプログラムの創出でありますとか、インバウンド対策の強化であります先ほど申し上げました聖地と言われるような競技場が関西各地にありますの

で、こういったものを活用した広域スポーツツーリズム、こういったものを創出できないかというような案でございます。

⑨としまして、「スポーツ関連組織とのネットワーク形成」ということで、関西、いろんな企業面でいいますと、製造業、ゴルフであるとか、ケミカル、いろんな製造業、スポーツに関連した企業がございます。そういった企業、それから行政、スポーツ選手、大学等の研究機関、こういったものを総合的に連携をして、スポーツを連動していく。こういったことで発展が見込めるスポーツ関連産業、これは製造業だけではなくて、産業の中には観光であるとか、アミューズメントであるとか、食、いろんな産業がスポーツと関連をして発展が見込めるのではないかと考えられますので、そういった現状把握と今後の振興方策、こういったものを、これは発展的などころだと思わんですけれども、研究してはどうかということで、二つ掲げております。

以上、戦略Ⅰ・Ⅱ・Ⅲの取組によりまして、三つ掲げている将来像、これを目指していこうというものでございます。

4の「ビジョンの実現に向けて」ということでございますが、これは結びの言葉としまして、「関西スポーツ振興の推進体制について共同で検討を進めていこう」ということで結んでおります。

以上でございます。どうかよろしくお願ひいたします。

○委員長（家森茂樹） それでは、次に移ります。ご発言がございましたら、挙手をお願いいたします。

八尾委員。

○委員（八尾 進） 3の「広域課題に対する戦略」の中の戦略Ⅰの①の二つ目の項目で、「防災や子育てなど、スポーツ以外の分野にスポーツをリンクさせた新しいイベントの開催」とありますけれど、この防災とスポーツ、子育てとスポーツをリンクさせるというのが少しちょっとイメージが湧かないので、ちょっとイメージできるようにご説明いただけますでしょうか。

○委員長（家森茂樹） 小橋スポーツ部長。

○広域観光・文化・スポーツ振興局スポーツ部長（小橋浩一） 具体的に今どんなことがあるかというのは思い浮かんでおらないんですけれども、例えば子供を連れ出すためには、子供が小さければ母親が参加をしていただかないといけない、そういった体操教室であるとか、例えば今各地域で防災訓練があります。防災訓練に参加をしていただいて、その訓練とともに、その後に何かイベントをするとか、全く違うものがひつつくようなイメージにはなるんですけれども、例えば防災で集まっていたら訓練をした後、エリアを使ったウォークラリーをするとか、何か集まったところで体を動かすようなものがないかというような発想でございまして、今これがというのは具体にないんですけれども、そういったものが検討できればというようなことを考えているということでございます。

○委員長（家森茂樹） 八尾委員。

○委員（八尾 進） ちょっとイメージしにくかったんですけれども、新しいおもしろい取組かなと思います。ぜひ成功するよう祈っておりますのでよろしくお願ひします。

以上です。

○委員長（家森茂樹） ほかにどうぞ。

中沢委員。

○委員（中沢啓子） 今のところの3のところもそうなんですけど、関西広域連合として本当にすべきこと、ワールドマスターズゲームズみたいな大きな大会は当然関西でないとできないでしょうし、ただ、この一つ目のポツのところ、「総合型スポーツクラブやスポーツ少年団などの地域スポーツ活動を支援」ということが書いているんですけど、具体的にどのような支援を考えてはるのかなというのがちょっと気になるんです。政令指定都市さんは、市で一緒にされていますので、全てされていると思うんですけども、都道府県は、普通の県は市町さんが大体担当になりまして、どちらかというと、そこが主となってされていて、県もそんなには、支援は若干ぐらいなんですよね。それは関西広域連合として一体としてするというのがどうもちょっとイメージができなくて、どんな支援を考えてはるのか、もしくはそこまで本当に具体的に支援をしますと、金額的なことがあるのかどうかちょっとわかりませんが、かなりのものになるのかなという気もしますし、一部地域だけであるということであるならば、それはそれで関西としてどうなのかということもあろうかと思うので、その辺がどうなのかということ。

それと、障害者のことなんかは非常にいいかなと思っていて、やはり広域でないとできないこともあるでしょうし、やっぱり情報としてはなかなか一カ所だけでもとれないところもあると思うので、そういうのはいいかなと思うんですが、ちょっとそのあたりは気になるなと思いました。市町さんにもどういう形で連携をするのかということも関西広域連合としてということなので、ちょっとそのあたりをお聞かせいただけたら。

○委員長（家森茂樹） 八木広域スポーツ振興課長。

○広域観光・文化・スポーツ振興局広域スポーツ振興課長（八木康文） 失礼します。

まず、この骨子の中の記載についてなんですけど、基本は広域連合として取り組むべき内容を書いておりますが、それプラス左下の将来像の実現に向けまして、各府県市レベルでも一層の取組を進めていただきたい事項についても、あえて書かせていただいております。例えば戦略Ⅰの一つ目の点につきましては、総合型地域スポーツクラブ、これにつきましては、生涯スポーツの振興の大前提となりますので各府県市でも一層取り組んでいただきたいということで書いておりますし、障害者スポーツの振興のこの二つ目の点につきましてもバリアフリー化等は各府県市でもともと取り組んでいただいているところですけども、あえてこれは一層取り組んでいただきたいということで書かせていただいているところです。

それから総合型地域スポーツクラブへの支援につきましては、各府県市さんでそれぞれ事情が異なっております。私ども兵庫県を例にとりますと、県のほうから支援をいたしまして、全小学校区に総合型地域スポーツクラブを立ち上げるという事業を既に推進しておりますけれども、ここはやはり府県市のそれぞれの判断がございます。広域連合として何ができるかということにつきましては、まだ具体的な案は持っておりませんが、最初の話に戻りますけども、まず府県市さんのほうでぜひ取り組んでいただきたいというふうを考えております。予算があるところ、予算がないところいろいろありますけれども、例えばお金がかからないのであれば、事務局の職員の配置であるとか、NPO法人化であるとか、活性化するための取組についての情報を提供するであるとか、県教育委員会のほうから、あるいは市の教育委員会のほうからクラブ運営について、具体的に有識者としてのアドバ

イスをするであるとか、そういった支援が考えられると思っております。

○委員長（家森茂樹） 中沢委員。

○委員（中沢啓子） それぞれの事情があるのは、それぞれでやっぱり地域として事情があってやってはったりとかすると思うので、全部一緒にはならないと思うんですね。それをわざわざここに書き出して、支援とまで書かれると、ちょっと不思議な感じが実はやっぱり残っているので、ちょっとその辺はもう少しまた整理をぜひしていただけたらと思います。

あと、今後レガシー、これからもいろんなことをされるということで書かれているんですけど、どんな形で残していくのかというのは、その後、やっぱりその大会で終わるんじゃないなくて、確かにその後を見据えて、どういう形にしていくのかというのを見て、当然やっていくべきだと思うんですが、そのためにわざわざ何かを残すということではなくて、本当に目指すべき姿の中で残すべきものというのをやっぱりやっていかないと、ために残すと、何かとりあえず大会一つ増やしましたみたいな話になっても意味がないと思うので、そこはぜひ。

それとあと、ぜひ関西広域連合ということなので、どこか一部だけでこういうような形でスポーツビジョンを出して、そこだけはどうもいきましたということではなくて、やっぱり全体的に経済波及効果が出るような形の、ぜひ骨子、もしくはその具体的なものにしていただきたいなと思います。

やっぱりどうしても中心に偏りがちになるんじゃないかという危惧をしますので、ぜひその辺は考えていただけたらと思います。

○委員長（家森茂樹） 小橋スポーツ部長。

○広域観光・文化・スポーツ振興局スポーツ部長（小橋浩一） まず、先ほどご指摘をいただきました総合型地域スポーツクラブ、それぞれの取組がございます。先ほど申し上げましたこの中でもアスリートの育成であるとか、それぞれの地域、それぞれの団体で取り組んでいること、これに何が支援できるのかということになりますと、当然委員ご指摘の予算の問題もございますし、ただ、先進的な事例の取組集をつくるであるとか、情報提供という意味では全体の取組はできるのではないかなと思いますので、支援と書くのはどうかは考えさせていただきます。表現につきましては、どの程度の表現をするのかということについては、今後検討をしていきたいと思っております。

それからレガシーのところにつきまして、これもご指摘のとおり、やはり最初に成功を目指して、それとともに自然とできてくるものがレガシーとして残っていくものだとことを我々もそこはよく承知をしている上であえて書いているんですが、そういった関西として次につなげていくものを残す、これを意識しながら取り組んでいこうという意味であえて書いているということでご理解をいただければと思っております。ご指摘ありがとうございます。

○委員長（家森茂樹） 中沢委員。

○委員（中沢啓子） ぜひそうしていただけたらありがたいと思っておりますし、全国大会というのは結構どこでもされていたりとか、近畿大会をされていたりとかすると思うので、国体も含めてですけど、そのときにやっぱり関西全域としてしっかり応援できる体制づくりであったりとか、そういうふうな形につながっていけば、今やっているものをもっと活

性化していくということにもつながると思うので、ぜひそういうような方向性もお願いしたいと思います。

以上です。

○委員長（家森茂樹） ほかに。

中川委員。

○委員（中川隆弘） 今聞かせていただいて質問もそうなんです、この骨子そのものがすごくぼんやりしているからいろいろ聞きたくなるという状況だと思うんですね。それで、じゃあ一般的に何が言えるかという、この内容で市の仕事、都道府県の仕事、関西の仕事、国の仕事というふうに分けたとすれば、それを全て何か入れられているようなイメージが出て、じゃあこれで一つ一つの項目を読んだときに、じゃあ何をすればいいのかというのが出てこない。だから何かその都道府県と市の仕事と何かまぜたようなイメージで、じゃあ、試合を誘致するといえ、もう今現に市・都道府県・国という試合のイメージというのは、もう大概どんなスポーツでもできていると思うんですが、それを誘致というと、じゃあ、関西でしてくださいというぐらいの誘致のやり方はできるでしょうけども、ただ、新しい試合なり、また新しい事業をするなりという、さまざま年間のスケジュールが皆さんもう組んでいる中で、それを取り組もうとすると新しい項目で取り組むというのは日程的にすごい難しい。じゃあどこかの試合を関西広域連合のほうにもらうというふうなことしかできなくなってしまうというのがあって、ただ、内容としては本当に関西広域連合がしなければいけないのは何だというのがすごくわかりづらいと思えて仕方ないんです。だからこれはお聞きするというより、そうイメージしたというのでご指摘だけさせてもらいたいなと思います。

○委員長（家森茂樹） 何かありましたら。

小橋スポーツ部長。

○広域観光・文化・スポーツ振興局スポーツ部長（小橋浩一） ご指摘ありがとうございます。かなり総花的になっているというご指摘、そのとおりだと思います。我々もそのスポーツ全体としまして、各種大会で競技会、かなり固定的に毎年度行われておりまして、それぞれにつきまして競技大会のほうでの日程であるとか、ああいったものを決めておられるということも承知をしております。ただ、それぞれ新たな大会を誘致する上で、各府県市がご努力をされているということも承知をしております、それが市レベル、それを県が支援するという上で、関西全体としてそれぞれの地域を誘致の上で広域連合もこういう支援をしているんだと、今委員おっしゃったように、関西へということをまず言えるということは、また逆に言うと、一つ大きな支援の形ではないかなというふうに思っております、そういったことがそれぞれの取組の中で、若干ぼやけたような格好というご指摘がございました。その記載の仕方でありまして、ある程度しぼり込むということも必要かもわかりませんので、ご意見に沿って新たに検討をさせていただきます。ありがとうございます。

○委員長（家森茂樹） ほかに。

藤田委員。

○委員（藤田孝夫） これは要望になるかもわかりませんが、今関西広域連合全体としての手詰まり感というのは、要するに負の分配に陥っている。人口減少とかさまざま

まなことから経済も含めて。やっぱり今回は関西広域連合全体で取り組むメリットはやっぱり二つだと思います。

一つは、広域調整することによって、例えばいろんなスポーツの仕方、それから各会場をどう手あてするかというような仕組みなんかは既に、例えば軽井沢のテニスコートなんかは各地域をまたいだ所有物件がどれだけあくかというのは、検索できて、それぞれが共有できる仕組みがあるわけですから、そういうことを使いながら、各市町のスポーツ振興をボトムアップすることの意義が一つ。

もう一点は、今あるスポーツ大会を、来ることは構わんですけれども、結果的に。新たに関西で誘致合戦に終始したのでは、それこそ国の地方機関移転の話と一緒に、負の分配議論ですから、やっぱりどちらかと言ったら、これから新しいスポーツをつくっていく、新しい大会を、なかったものをつくっていくという視点が重要だと思いますけれども、その辺の構想というのはいかがでしょうか。

○委員長（家森茂樹） 小橋スポーツ部長。

○広域観光・文化・スポーツ振興局スポーツ部長（小橋浩一） ご指摘ありがとうございます。

まず、最初におっしゃっていただきましたそういった施設の活用状況というものを我々もいろいろ見てみますと、やはりそれぞれの競技場、県なり、市なり、それぞれ単独で持っておるんですけれども、例えばある大会を誘致するときに、隣の県の会場はあいているけれども、我がところでやろうとすれば連携してできない、なかなかそういった情報がないというようなところに関西でお互いに情報を持っておれば、一市だけではなくて、連携をして二日、三日かかるような大会を共同してできますよというようなことでありますとか、連携をすることによって、これまでは単独ではできなかったことが複数の競技場をリンクすることによって、できるようになるのではないかと。ですから、そういった情報提供という意味で一つ盛り込みをさせていただきまして、その記載状況、方法につきましては、また委員ご指摘のとおり検討させていただきたいと思っております。

それから負の分配ということにはならない、逆に我々それが前向きなほうにならないかなというふうに考えておまして、それぞれの地域づくりとか、まちづくりというものにリンクをしていくというようなことでツーリズムというようなことの提案もさせていただいておまして、一つのところがインバウンドであったり、国内であったり、スポーツの参加者が来られる、応援団が来られる。それをまた観客として来られるという、そういった関西に入ってこられる方、それを関西一円で共同で迎え入れることができないかというような意味でツーリズムの提案もさせていただいておりますので、スポーツを核として前向きな取組ができないかということを考えていきたいと思っております。

○委員長（家森茂樹） 藤田委員。

○委員（藤田孝夫） 海外からのインバウンドを増やすということが本来の目的ではないわけですし、メーカーだったり、それから各スポンサー、いろんなところを含めてやっぱりスポーツそのもののあり方、競技そのものが変わってきているということをやっぴり先に捉える必要があるということを示し上げたかったんです。マスターズゲームズを成功させるためのこれも必須条件で、この二つがかみ合ってくると思っておりますので、その辺も意識しながら、そのマスターズの意識啓発も含めた取組としてよろしくお願ひしたいと思

います。

以上です。

○委員長（家森茂樹） ご意見でよろしいですか。

○委員（藤田孝夫） はい。

○委員長（家森茂樹） ほかにございますか。

元木委員。

○委員（元木章生） 先ほど来、議論がありましたとおり、私自身もスポーツ少年団のお世話ですとか、総合型スポーツクラブのお世話もさせていただいているわけですが、すけれども、特にスポーツ少年団等ですと、もう既に関西圏域を舞台にした大会というのがたくさんあるわけですが、こういった既にある大会を支援するですとか、総合型地域スポーツクラブ同士の交流があれば、そういった部分を応援するといったような形で支援していただければありがたいかなと感じておるところでございます。こういうことも踏まえまして、特にちょっとお伺いしたかったのがプロスポーツチームとの連携ということについてであります。本県においても、徳島インディゴソックスですとか、徳島ヴォルティスですとか、弱小ですけれども、プロスポーツチームがございまして、地域貢献、いろんな行政等のバックアップのもと、各種防災や子育て活動等貢献していただいているわけでございます。例えば私は徳島の出身ですけれども、今度ガンバ大阪のスタジアムが新しくできたということで、徳島の子供たちもそういったスタジアムに行って、いろんな活動をしたいですとか、都会の大阪の子供たちと交流したいとか、そういったニーズがあるわけですが、こういう中で関西ワールドマスターズゲームズとこの圏域内に拠点をプロスポーツチームや実業団との連携によりまして、相乗効果が生まれてくる部分もあるんじゃないかなと思うわけですが、このビジョンの中でそういった観点というのを盛り込むことは可能でしょうか。

○委員長（家森茂樹） 小橋スポーツ部長。

○広域観光・文化・スポーツ振興局スポーツ部長（小橋浩一） ご意見ありがとうございます。プロスポーツの観点につきまして、今回はっきりと記載をしているわけではございませんが、私どもも意識をしております、例えば戦略の子供、子育て世帯、そういったもののスポーツになじむということに対しましては、プロの方のスポーツ教室であるとか、かなりの子供が野球であったり、サッカーであったり集まりますし、最近はラグビーもそういった盛り上がりを見せているというようなことで、プロの方の力をかりて、そういった生涯スポーツの振興ができないかということと、そのトップアスリートに練習なりをしていただくというのが、そのプロとアマとの関係で実現できるかどうかということはあるんですけれども、そういったプロ、その球団なり、団体の支援ということではなしに、その選手に来ていただく、別の地域に行ってください、徳島から大阪に行ってくださいとか、そういった交流をする中で一般市民がなじめる、そういったことにご協力いただけないかというようなそういった考えもございまして、どこかにそれが記載できるかどうか、ちょっと検討させていただきます。ありがとうございます。

○委員長（家森茂樹） ほかにございますか。

興治委員。

○委員（興治英夫） 若干思いつきのようなところもあるので、詳細を把握した上での

発言ではないんですけれども、先ほどスポーツ少年団であるとか、その総合型地域スポーツクラブに対する支援の話も出ました。それからスポーツ指導者を初めとしたスポーツ人材の育成、指導方法の普及というような話も出ておまして、スポーツ障害、スポーツによって、いろいろその健康上の問題が出てくるという、そういった課題もあると思うんです。特に児童生徒の場合、スポーツをすることによって関節を痛めたりとか、野球ひじ、野球肩とか、サッカーなんかでもひざを悪くしたりとか、腰を悪くしたりとか、それからテニスひじであるとか、バレーボールでも肩を痛めたりとか、そういうようなスポーツ障害が特に児童生徒の場合はあるのではないかなと思うんですね。ただ、それについて、いろんな対策も競技団体であるとか、あるいは医師であるとか、そういった連携のもとにやられているというところもあるとは思うんですけれども、ただ、例えば都会地で人口の多いところと、鳥取県のように人口の少ないところでは、そういった症例なんかはかなり差がありますし、恐らくそういった症例を取り入れた上でのトレーニング方法、医学的、あるいは科学的見地に基づいた、そういうトレーニング方法の開発であるとか、普及であるとかというような点にも違いがあるのではないかなと思うんですね。だから広域的にそれらを捉えて、一つの課題として検討していくということもあっていいのではないかなと思うんですね。その辺のことについても、この中に盛り込めるかどうかわかりませんが、少し長いスパンでも結構なんですけど、ご検討をいただいたらどうかなと思うんですけどいかがでしょうか。

○委員長（家森茂樹） 小橋スポーツ部長。

○広域観光・文化・スポーツ振興局スポーツ部長（小橋浩一） ご意見ありがとうございます。いわゆるそういったスポーツ医学でありますとか、そのアスリートに対するケアの状況であるとか、恐らく各府県市、競技団体、委員ご指摘のようにいろんな蓄積があると思います。ただ、私どももどこでどういった情報があるのか、それが出ていく状況にあるのかどうかということにつきましては、並行して調査をする必要があるのではないかなと思っております。ある意味、ここのスポーツ人材の育成とうたっている中には、アスリートだけではなくて、審判、それから競技を支える者ということをイメージしておりますので、そういった医学的な見地からの指導ということも盛り込むことは可能ではないかなと。逆にご指摘のとおり、そういったことをケアがあつてこそ、逆に子供たちの健全な育成であるとか、スポーツの振興につながると思いますので、ご意見をどこかで人材の育成というような観点をもうちょっと広げるような形になるかもわかりませんが、参考にさせていただきます。ありがとうございます。

○委員長（家森茂樹） ほかにございますか。

大橋委員。

○委員（大橋一夫） 京都府の大橋です。すみません、先ほどから委員の皆さんから意見が出ているところなので重ねてになりますので、意見として申し上げておきたいと思っております。

やっぱりこういう総花的なものが出てくると、今、関西広域連合自体はやっぱり手詰まり感であるとか、その存在感がなかなかないという状況の中で、一体広域連合として、あるいは広域連合じゃないとできないことというものの整理というのがやっぱりどうしても必要になっているんだろうと思います。今日見せていただいた骨子（案）を見ても、例え

ば先ほどご説明があったんですが、「府県市で取り組んでいただきたいものを書きました」というお話があって、この2の「関西が目指す将来像」の生涯スポーツの拠点のところを見ると、「各府県市間の円滑な調整力のもと」と書いてあって、じゃあ、これ連合は何をするんですかという、まず主語は各府県市なんですよ。ですから、やっぱりそういうところをきちんと整理していただくことがやっぱりどうしてもこれからの連合にとっても必要なことなんじゃないかというように思えるんです。そういう意味で、やっぱり今回出してこられた中身というのは、ちょっとそういう視点から見てももう少し整理が要るのかなというように思いますので、ぜひその辺をご考慮いただいてまとめていただくよう、これはもう意見として申し上げておきます。

○委員長（家森茂樹）　ほかにございますか。

それでは、ご発言も尽きたようでありますので、本件については、これで終わります。

以上で、産業環境常任委員会を閉会いたします。ご苦労さまでした。

午後3時00分閉会

関西広域連合議会委員会条例（平成23年関西広
域連合条例第14号）第28条第1項の規定により、
ここに署名する。

平成27年12月

産業環境常任委員会委員長 家 森 茂 樹